



# かこうねんし フルメット液剤と果梗捻枝の組み合わせで 収益UP！！

～トマトの裂果対策技術の開発～

## 開発の背景・ニーズ

トマトは9～10月にかけて気温の低下などによって夏秋トマト産地の出荷量が減少するとともに、冬春トマト産地は出荷始めで全国的に出荷量が少ないため、入荷量減による販売単価高となる傾向があります。しかし、この時期はトマトにとって生育しやすい環境のため果実が急激に肥大することにより裂果（図1）が多発し、収益減少に繋がるため対策が必要です。

## 成果の内容

裂果対策として、フルメット液剤（図2）と果梗捻枝（図3）を組み合わせた処理を行い、裂果率及び10aあたりの収益を調査しました。

フルメット液剤は、果実径3～5cmの時に20ppmの薬液を散布する処理です。

果梗捻枝は、茎から分かれて伸び、その先に果実をつけている果梗と呼ばれる部分を、果実の白熟期（肥大が終わり、着色前の状態）にペンチ等で潰す処理です。

上記の2処理を組み合わせたフルメット+果梗捻枝区は、裂果率が26.3%（無処理区67.5%）、収益は845千円（無処理区384千円）となり、有効性を実証できました。（図4）



図1 トマトの裂果



図2 フルメット処理



図3 果梗捻枝処理

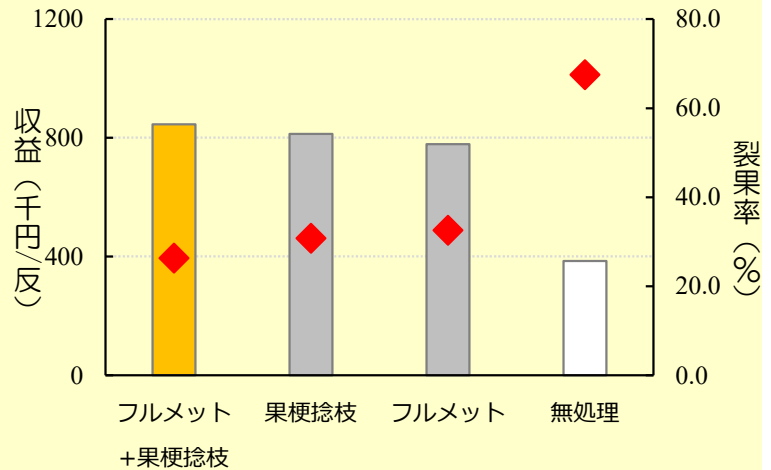


図4 収益及び裂果率

◆ は裂果率を示す

## 愛知県農業への貢献

フルメット液剤、果梗捻枝処理により裂果率は低下し、併用することでさらに効果が高まるため、トマト農家の収益向上に寄与します。

ただし、果梗捻枝は必ず白熟期に処理する必要があります。幼果期に処理すると果実の肥大が抑制され、収量低下に繋がります。また、フルメット液剤の高温時処理は白斑症状が見られる場合があるので避けてください。

【本研究は、JAあいち経済連、トヨタネ株式会社との共同研究「高度環境制御技術を利用した施設果菜（トマト）の高収益生産技術の開発」で実施した成果です。】